緑友

全国印刷緑友会
http://www.greenfriend.jp/

波濤に立ち向かう！

年頭にあたり

全国印刷緑友会　会長
岩重昌勝

全国印刷緑友会の会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年中は緑友会の事業運営に際し格段のご協力、ご支援をいただきました。心よりお礼申し上げます。さて平成も早いもので20年を迎えました。この20年間は多くの方々にとって非常に起伏に富んだ時代だったのではないでしょうか。バブル景気が一気に弾け、失われた10年と表現されました。その後、大企業は中国を初めとする新興国の発展の恩恵により「いざなぎ景気」を超える戦後最長の好景気に沸き、一方中小零細企業は格差社会の影響をまともに受け構造不況から全く脱していません。

そして原油価格の暴騰やサブプライムローン破綻問題で景気後退が予測され株価も急降下の状況です。これは円高の続伸により輸出関連企業の業績降下観測からです。

年明けより不安な話題ばかりですが私は希望を捨てておりません。わが国は「ものづくり」の国家だからです。精密部品の集合体である「自動車」の世界No1企業はトヨタ自動車です。デジタルカメラ、プラズマ・液晶TVの世界シェアはガリバー級。航空業界で断トツの覇権を握るボーイング社の最新鋭ジェットB787の機体の35％は日本製。その他、素材から最終製品にいたる一貫生産を手がけられる日本は世界で唯一無二な国家だからです。

その「ものづくり」を進める「情報インフラ」を担っているのが我々印刷業界です。そして印刷会社だけに留まらず関連業、サプライヤーの青年達まで巻き込んで研鑽を目的に50年も前から活動してきたのは全国印刷緑友会だけなのです。

先達の英知と果敢な行動力、そして強固な団結を見習い、目の前に広がる「波濤」に立ち向かおうではありませんか。皆様の明日は確実に開かれています。

平成20年1月吉日

グループ長&常任会議（大阪）

全国印刷緑友会　総務担当　外間政朝

日本列島が寒波に見舞われる中、平成20年1月26日（土）大阪のいけす船頭料理和田幸にてグループ長・常任幹事会議を開催致しました。

イベント開催時以外の単独開催では、平成5年11月（当時の会長は、20代利根川政明氏）に熱海で開催した会議以来久しぶりにグループ長を交えた会議を開催致しました。

熱海で開催した会議は、岩重会長の全国デビューの日でありそのときに諸先輩から色々な事を学び緑友にどっぷり浸かるきっかけになった会議と聞いています。（歴史を感じます。）

会議は、グループ長12名、常任幹事17名、オブザーバー6名合計35名出席の中定刻10分遅れの14時40分にスタート致しました。

議題が14も有り会議時間3時間と制約のある中時間を気にしながらの会議運営でした。今回の会議で決定したことを簡単にご報告申し上げます。平成21年度総会開催をY―ING（ワイイングやまなし情報メディア研究会、平成20年度セミナー開催を名古屋而立会より開催立候補があり承認されました。第28代会長候補についても大阪青年印刷人クラブの作道孝行氏の推薦があり満場一致で承認を得ました。28代会長の件は、神奈川総会に於いて正式に議案とし上程し承認を得る予定です。

紙面の都合上あまり細かい事を報告できないので詳細については、後日ホームページの議事録をご確認宜しくお願いします。

会議の前日（1月25日）に製紙業界の印刷用紙及び紙製品への古紙パルプ配合偽装についての緊急会合を全国青年印刷人協議会有志一同と行いグリーン購入ネットワークが既に1月21日に発表している声明文に賛同する形で共同声明文を発表する件が、議題として追加され決定いたしました。（次回のフレンズオブグリーンに経過報告及び共同声明文（案）を掲載致します。）

白熱した議論も有り定刻終了も危ぶまれたのですが、皆様のご協力により無事終了する事が出来、懇親会も定刻より開催する事が出来ました。

今回参加していただいたグループ長の皆様ならびにオブザーバーの皆様、設営を担当していただいた大阪印刷人クラブの石井会長及び会員の皆様、ご協力ありがとうございました。

追伸：寒かった!!（風邪引きそうです）

沖縄に戻りレンタカーにおかまをほられました。

会議のようす（挨拶をする岩重会長）

印刷業界に激震！ 製紙業界の偽装問題

各報道機関で報じられている通り、年賀はがきの古紙配合率偽装問題から端を発し、コピー用紙、各種印刷用紙、文具事務用品など多方面に影響が広がっています。官公庁の一部では入札がストップしたり、発注が遅延しているところもあるようです。国で定めたグリーン購入法に基づき、古紙の配合を定めた環境配慮製品が多く発売されています。

日本人のリサイクル文化の象徴であり子供から大人まで、紙を使い捨てにせずリサイクルする習慣の水準は世界でも群を抜いています。そこで、今私達印刷業界は多くのクライアントや消費者に対し何をすべきでしょうか？ 一部では賠償問題が報じられたり、顧客や消費者の利益を守るため商品や印刷物が撤去されたり、廃棄されたりという自体まで発展しようとしています。

もともと再生紙など環境配慮製品は、環境負荷低減を目的に製造されたものです。ですから、製造された物品は「そのまま使う。訂正して使う。双方が納得して使う」が環境の視点からいっても無駄がありません。そこで、全国印刷緑友会は、会員へ向けて声明文を話し合いました。皆様には近々FAXにてご連絡いたしますのでご理解・ご協力のほどを宜しくお願いいたします。

（文責　藤田靖）

リレーエッセイ

私と緑友会

全国印刷緑友会
中部ブロック担当常任　後藤規之
（名古屋而立会所属）

名古屋而立会の後藤でございます。

私が緑友会の常任幹事に就任したのは、今は亡き矢谷会長の時でした。

その当時は書記担当として議事録をアップするのに苦労した覚えがあります。

翌期に京都の森田会長が就任した折に総務担当として２年間常任幹事を仰せつかりました。

今にして思えば、この２年間が一番楽しかったです。

たまたま名古屋と京都と言う近距離でしたので会長と私は隔月で行き来し、夢と想いを語り合いました。

この２年間での最大の目的は、会の会計を黒字転換させることでした。

常任幹事の皆様方には活動費を半額にさせていただき、３大イベントである総会・大会・セミナーを心苦しくも隔年開催とさせていただきました。

忘れもしない京都総会では、隔年開催に関して厳しい意見を頂きました。

ただ、今にして思えば厳しいが財政上止むを得ない決断であったことに間違いは無かったと思います。

この２年間で培ったものは今でも弊社で行き続けております。

そして全国に同じ志を持った仲間が、こんなにも多くいることに感銘と感激を覚えるだけでなく励みにもなりました。

私のような思いを、これからの若手にも感じていただき各会社の経営に生かしていただきたく存じます。

最後に森田元会長をはじめ、秋田の大門氏、神戸の岸氏にはいろんなアドバイスをいただき心より感謝申し上げます。

〈今後の行事予定〉

2008年5月17日（土）
平成20年度 全国印刷緑友会
第51回神奈川総会

発　行：全国印刷緑友会
責任者：Y-ING やまなし情報メディア研究会
井上雅博
編集人：Y-ING やまなし情報メディア研究会
齊藤理

FAX不要な方はこちらへご連絡下さい
masatomo@kobundo.net

編集後記

『偽』は、去年の字ではなかったのか。新年早々、偽装が、世間を、印刷業界を、思いっきり揺さぶっている。

でも、リサイクルって、何のためなんだろう。最近は、地球環境を守るため、っていえば、水戸黄門の印籠のようなもので、何でも良いという風潮で、あまのじゃくの自分としては、ちょっと立ち止まって考えてみたくなる。

日本では、古く江戸時代には、高度な再利用社会が、形成されていたと聞く。現代と大きく違うのは、環境対策に、お上がお金を出す、ってなことで、利権が生まれるわけでもなく、能動的に、行われていたらしいこと。

当たり前の気持ちとして、お天道様のエネルギーをいっぱいに受け、育ったものを使わせていただく。だから、どんなものも、余すところなく、使い切る。そんな気持ちの表れではなかったのか。

『仕事をさせていただく』、『ご飯を食べさせていただく』。この『させていただく』っていう気持ちを忘れなければ、争いごとも、大分、減るってもんじゃないだろうか。

『生きてるだけで、丸儲け』っていう言葉のように、欲張らない、と言うか、何が大切かを、も一度考えてみたいもんだ。

日日是好日。

（徹熊）